



時蠅は矢を好む？



みなさんは英語が得意でしょうか？すらすらと読むことができますか？

大学での学習、研究を進めていると、英語の文章を読む必要が出てきます。特に自然科学系の分野では読まないといけないことが多いでしょう。本書で紹介している PubMed や SciFinder などのデータベースも英語です。またパソコンで電子ジャーナルを読もうとした時にも、英語にぶつかるでしょう。

さてこのデータベースや電子ジャーナルの英語、パソコンが自動で訳してくれればとても便利なはずです。実際に文章を入れてやれば翻訳してくれるサイトやソフトもあります。でも試したことのある人なら分かると思いますが、翻訳されてくる日本語は相当おかしな文章になっていることが多いのです。どうしてでしょうか？次の文を見て下さい。翻訳の話では、とても有名な文例です。

Time flies like an arrow.

みなさんはこれをどう訳しますか？「時は矢のように飛ぶ」つまり光陰矢のごとしですね。Time が主語で flies が動詞です。でも次のように訳すこともできると思いませんか？「時蠅は矢を好む」この場合には、Time flies が主語、like が動詞になっています。このように、一つの単語が複数の意味を持ち、文中の役割も動詞、名詞、形容詞と使い分けられていることが、コンピュータによる翻訳を難しくする原因です。後の訳はかなり変な日本語になっています。でも人間なら変な訳だと分かるのですが、コンピュータは変かどうかなんて考えてくれないので、こんな誤訳をしてしまうことがあるのです。（この文は有名なので今ではコンピュータもちゃんと訳してくれるはず・・・です。）

さてこのようにコンピュータは意味から判断できないために、変な訳をしてしまい、私たちはなかなかコンピュータ翻訳を有効に使うことが出来ないのですが、しかしこういった研究は研究者の方によって日々進められています。みなさんの中でもこれからこのような分野の研究にチャレンジする人もいるでしょう。将来、英語の論文をパソコンの翻訳にかけるだけで、読むことができるようになれば素晴らしいですね。